

# 沖縄県平和祈念資料館だより



## ～ 平和の尊さを心に刻み、平和への願いを新たに ～

沖縄戦から 80 年の節目に、天皇・皇后両陛下と愛子様は、戦没者の慰霊等を目的に、6 月 4 日から 5 日の日程で、沖縄を訪問されました。

4 日は、糸満市摩文仁の沖縄平和祈念堂、国立沖縄戦没者墓苑、平和の礎、沖縄県平和祈念資料館を訪問され、当館のご視察は、天皇陛下は 3 回目、皇后陛下は 2 回目で、両陛下とも令和 4 年 10 月以来、愛子様ははじめてのご来館となりました。

御三方は、沖縄戦の展示において、犠牲となった住民や、凄まじい砲爆撃跡等の写真等を丁寧にご覧になられ、「大変痛ましい」と幾度となく感想を述べられていました。第 4 室の証言の部屋では、愛子様が、前回のご訪問時に両陛下がお読みになられた戦争体験者の証言を読まれ、「なんと壮絶な・・・戦場ではこのような痛ましい状況が起こるのですね。」と感想を述べられていました。

旧沖縄県立平和祈念資料館から引き継いだ「展示むすびのことば」の展示では、愛子様は、皇后陛下に「近づいて読んでよいでしょうか。」と声をかけられ、展示にお近づきになり、時間をかけて、熱心に読まれていたことが印象的でした。平和を希求する「沖縄のこころ」が刻まれている「展示むすびのことば」には、愛子様の心に響くものがあつたのだと思います。県民を含め、沖縄を訪れる方々に、ぜひ当館へご来館いただき、展示を観覧いただいた後、展示むすびのことばを読んでほしいと願います。

戦争体験者や語り部、遺族連合会の方々とのご懇談では、両陛下及び愛子様が懇談者に熱心に質問されていました。ご懇談後、天皇陛下からは、「大変貴重なお話を聞くことができました。」とのお言葉をいただきました。

今回のご訪問について、両陛下は、侍従を通じて、「悲惨な沖縄戦の様子や、当時の人々の苦難について、改めて理解を深めるとともに、初めて訪れた愛子も、苦難の道を歩んできた沖縄の人々の歴史を深く心に刻んでいました。」「沖縄戦で亡くなられた方々や、戦争によって苦難の道を歩まざるを得なかった方々に思いを寄せつつ、平和の尊さを心に刻み、平和への願いを新たにしていきたいと思います。」との感想を発表されました。

今回の両陛下及び愛子様のご訪問を契機に、多くの方々が、沖縄戦について学び、「平和や命の尊さ」について改めて考える機会に繋がっていただければと思います。

# ・ 沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本計画について ・

展示リニューアルに向けて、令和 7 年 1 月に策定した基本構想の中で示された「展示更新における基本方針」、「展示更新の基本的な考え方」などを踏まえ、令和 7 年 10 月 6 日に沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本計画を策定しました。基本計画の策定に当たっては、展示更新監修委員会等における議論のほか、県民意見募集も行いました。基本計画に関しての詳細は沖縄県ホームページに掲載しています。

## 1. 沖縄県平和祈念資料館（本館）

### （1）常設展示室（2 階）

#### ①全体構成

- ・ 展示室の構成と各室のテーマは、原則として現展示室を引き継ぐ。
- ・ 各展示室の間のニュートラルゾーンを展示スペースとして活用する。

#### ②展示展開の方向性（各展示室ごとの主な留意点）

- 第 1 展示室：自分に引き寄せて考えるきっかけを提供する導入展示及び問いかける展示を新設  
開館以降蓄積された研究成果を踏まえた展示内容の見直し
- 第 2 展示室：映像鑑賞と展示観覧の動線や展示室のレイアウトの見直し  
障がい者やハンセン病患者、性暴力など多様な視点からの住民犠牲の諸相の充実
- 第 3 展示室：ガマ内部の再現シーンについて、各シーンの意味を補完する演出等の追加
- 第 4 展示室：老朽化が顕著なタブレット端末について、機器変更を含めた更新
- 第 5 展示室：開館以降の沖縄国際大学へのヘリ墜落など事件・事故等の展示の追加  
街の再現コーナーへの解説機能の付加や音響演出などの追加

### （2）子ども・プロセス展示室（情報ライブラリー含む）（1 階）

#### ①全体構成

- ・ 開館以降大きく変化した世界各国の状況、社会情勢に対応できていないことから全面更新する。
- ・ 現在のコンセプトを継承しつつ、「平和の礎」など新たなコーナーの設定を検討する。
- ・ 若い世代に親しみやすいスペースづくり、自分事として学び合うことができる展示を目指す。

#### ②コーナーの設定

- ・ 「平和の礎」を考えるコーナー
- ・ 現在の戦争や平和について考えるコーナー
- ・ 企画展示コーナー
- ・ 学びとふれあいコーナー
- ・ 情報ライブラリー

## 2. 八重山平和祈念館（分館）

### （1）全体構成（展示更新の方向性）

- ・ 沖縄戦に至るまでの経緯を伝える展示を追加する。
- ・ 八重山地域及び出身者の証言資料を活用した展示を導入する。
- ・ 八重山における「戦争マラリア」を伝える展示を再編し、訴求力を強化する。
- ・ 八重山の各島々の沖縄戦の状況について伝える展示を追加する。
- ・ 八重山の戦後史を伝える展示を追加する。
- ・ “沖縄のこころ”を理念とした八重山から平和を発信する展示を設置する。



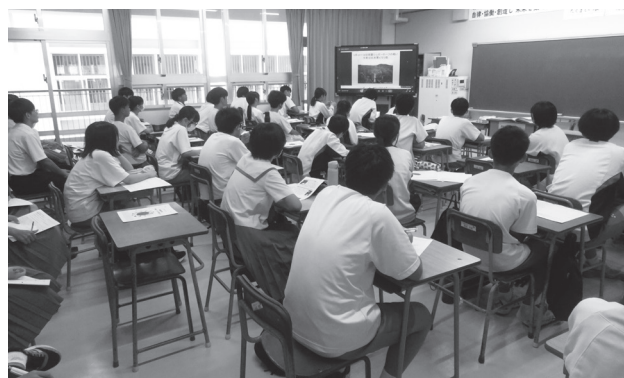
## 「沖縄戦の語り継ぎ手養成講座」修了者の活動報告

沖縄県平和祈念資料館では令和6年度に「沖縄戦語り継ぎ手養成事業」をスタートし、今年度も8月から2期目の「語り継ぎ手養成講座」(受講生40名)を開催しています。昨年度「沖縄戦の語り継ぎ手養成」講座を修了した一期生3名が、県内の中学校、高等学校にて平和講話を行いましたのでご紹介します。

### (1) 豊見城市立豊見城中学校【平和講話】

日時：令和7年6月10日 8:25～9:25

講師：野原 綾子（沖縄戦の語り継ぎ手養成事業修了者）



### (2) 沖縄県立那覇国際高等学校【平和講話】

日時：令和7年6月18日 9:45～10:40

講師：山本 広美（沖縄戦の語り継ぎ手養成事業修了者）



### (3) 浦添市立神森中学校【平和講話】

日時：令和7年6月20日 13:50～14:40

講師：米須 理恵（沖縄戦の語り継ぎ手養成事業修了者）



## ・ 夏休み子ども向け企画(親子で学ぶ沖縄戦・親子平和フィールドワーク) ・

**期日** 令和7年8月10日(日)、8月11日(月)

沖縄県平和祈念資料館では、夏休み期間中に子ども向け企画として「親子で学ぶ沖縄戦」と「親子平和フィールドワーク」を行っています。「親子で学ぶ沖縄戦」では前半に平和講話を聞き、後半は常設展示室を観覧するコースです。それに対して「親子平和フィールドワーク」は広大な平和祈念公園内を実際に親子で歩きながら平和の礎や戦跡巡りを行います。どちらも2時間程度のコースで職員の説明を聞きながら、家族で沖縄戦についての理解を深めることができます。

### 【参加者アンケートより】

- \*とても貴重な学習をさせていただきました。説明も丁寧でわかりやすく、平和の大切な思いも伝わってきました。展望台からの景色があまりにも美しく、そしてその美しさゆえ悲しくもなりました。
- \*私は関東出身ですが、戦争についての勉強は教科書の数ページでしか学んでいない為、今回、子供と一緒に学ぶことができると知り参加しました。戦争体験者の声や絵がとても印象的でした。今日学んだことをSNSを通して平和のために発信してゆきたいと考えています。
- \*親子で実際に戦争について深く知りたいと思い参加しました。平和学習でも行かない場所に行け、子供にもとても有意義だったようです。説明もとても分かりやすかったです。



「親子で学ぶ沖縄戦」で講義を聞く参加者

夏休み子ども向け企画

## 親子平和 フィールドワーク

2025年8月11日(月) 10時～12時

平和の礎  
第32軍司令部壕  
黎明の塔  
沖縄師範健児の塔  
金井戸川

## ・ ギャラリー展「一建設30年—平和の礎が伝えてきたもの」 ・

**期間** 令和7年6月3日(火)～令和8年3月22日(日)

今年で建設から30年の節目を迎えた「平和の礎」についてのパネル展を、八重山平和祈念館の6月企画展との合同企画として行いました。

「平和の礎」は 沖縄戦等で亡くなられたすべての戦没者を追悼する施設として1995年に建設されました。戦没者の氏名を、国籍・性別・身分(軍民)問わず刻銘し追悼するという世界でも希にみる施設であることから、現在も県内外から多くの方が見学に來ています。

本展示では、「戦没者の追悼と平和祈念」「戦争体験の教訓の継承」「安らぎと学びの場」という基本理念や、「平和の波 永遠なれ」というデザインコンセプト、あるいは「平和の礎」には刻銘されていない人もいるといった課題も紹介しています。

本展示の特色として、刻銘されている方の人となりや戦争体験を紹介しました。沖縄戦の語り部として活躍している、玉木利枝子氏、故・平良宗潤氏とご家族、田本徹氏のご協力のもと、御三名のご家族の人となりや沖縄戦でどのように亡くなったのか、あるいは自身や他の家族はどう生きのびたのか、といった沖縄戦体験をまとめました。そのことにより、刻銘者がただの名前ではなく、私たちと同じように、家族とともに暮らし、日々を生きた方々であり、戦争がおきるとどうなるか、を自分事として考えてほしいというねらいがあります。そのことを知った上で、あらためて「平和の礎」の刻銘に向き合っていただければ幸いです。



一建設30年—  
平和の礎が  
伝えてきたもの

入場無料

2025 6月3日(火)～2026 3月22日(日)

会場 ギャラリー展 時間 9:00～17:00

会場 沖縄県平和祈念資料館2Fギャラリー

住所: 糸満市摩文614-1 TEL: 098-997-3844

沖縄県平和祈念資料館



# 子ども・プロセス企画展

## (1) 第1回 子ども・プロセス企画展

「捕虜になった時 多くの命を救った決断―」

**期間** 前期：令和7年6月6日（金）～7月13日（日）

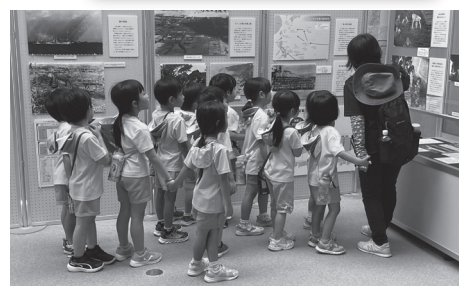
後期：令和7年9月6日（土）～10月13日（月）

**場所** 子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」

軍人よりも一般住民の戦没者がはるかに多かった沖縄戦で、住民の犠牲が増加した背景にはさまざまな要因がありました。地上戦に巻き込まれたことによる被害に加え、住民の避難対策が不十分だったこと、アメリカ軍が無差別攻撃を行ったこと、日本軍が避難壕からの追い出しなどの住民迫害を行ったことが考えられます。さらに、アメリカ軍の投降の呼びかけに応じなかったために人びとは攻撃を受け、多くの犠牲につながりました。

今回の企画展では、アメリカ軍からの投降の呼びかけに対して「捕虜」になった人びとと、それに応じず命を絶った人びとについて取り上げました。絶望的な状況下で、生と死の判断がなぜ分かれたのかを、体験者の証言や当時の資料などから考えました。

沖縄戦で最も多くの犠牲となったのは一般住民であったという歴史的教訓を深く理解し、戦争体験やその教訓を私たちがどのように継承していくのか、一人ひとりが考える機会としました。



企画展を見学する子どもたち

## (2) 第2回 子ども・プロセス企画展

「チャレンジ！夏休み自由研究 ―沖縄戦について調べてみよう!!―」

**期間** 令和7年7月19日（土）～8月31日（日）

**場所** 子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」



夏休みの機会に、子どもたちに沖縄戦に関心を持ってもらう企画として、夏休みの自由研究についてのヒントなどを紹介する展示を行いました。情報ライブラリー内には、自由研究学習コーナーを設置し、子どもたちが学習に集中して取り組めるようにしました。また、関連イベントとして自由研究相談室や子ども教室を開催しました。

「夏休み子ども教室一きいて、みて、さわって、調べよう！」では、学芸員の解説や戦争体験者の証言を聞き、当時の写真や資料を見て、実際に戦争で使用された資料に触ることにより、子どもたちが戦争や平和について理解を深める機会としました。

【自由研究相談室】相談者数 32 名      【子ども教室】参加者数 12 名



企画展の様子



解説を聞く親子



実物資料に触れる子ども



## 八重山平和祈念館 活動報告

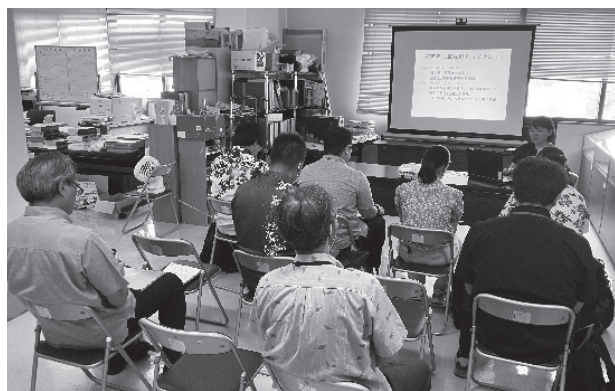
### (1) 地域内教員向け見学説明会

**実施** 令和 7 年 5 月中旬 ～ 計 2 回

※4 月中旬に募集（参加希望者に合わせて実施）

地域の小中学校において、平和学習の場として当館を活用いただくことを目的として、地域内の教員を対象とした見学説明会を実施しました。

説明会では、当館利用にあたっての手続き方法、常設展示の解説を行い、計 2 回、19 名の教員の方々にご参加いただきました。



### (2) 企画展「一建設 30 年－ 平和の礎が伝えてきたもの」

（本館ギャラリー展・分館 6 月企画展合同）

**期間** 令和 7 年 6 月 3 日（火）～ 7 月 6 日（日）

建設から 30 年となる「平和の礎」をテーマに、本館ギャラリー展と合同で企画展を実施しました。平和の礎の「追悼の場」「平和学習の場」という基本理念や建設の趣旨、デザインコンセプトなどを紹介するほか、刻銘者とその家族・関係者の戦時下における生活の様子や証言記録の展示を行いました。

また、企画展中の 6 月 23 日慰霊の日には、戦争に関するアニメ DVD 上映会を実施しました。

6 月は最も来館者の多い時期ということもあり、多くの方々にご観覧いただくことができました。

〔観覧者〕 946 名（大人 639 名、小人 307 名）



### (3) ひめゆり平和祈念資料館戦後 80 年移動展「ひめゆりと八重山」

（八重山平和祈念館共催・8 月企画展）

**期間** 令和 7 年 8 月 1 日（金）～ 9 月 1 日（月）

公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団主催、八重山平和祈念館共催として移動展を実施。「ひめゆり学徒隊」全体に関する資料や記録のほか、八重山出身である学徒や教師について詳しく紹介することで、当館常設展では紹介できていない沖縄本島での地上戦を経験した八重山出身者の記録や、それぞれの思いに目を向けていただく機会となりました。

そのほか、オープニングセレモニー・ギャラリートークやワークショップといった、展示関連イベントを実施しました。

〔観覧者〕 974 名（大人 741 名、小人 233 名）





## 「児童・生徒の平和メッセージ」

## 入賞者一覧（優良賞以上）

今回も多くの応募がありました。図画 746 点、作文 293 点、詩 937 点の中から入賞された皆さん、おめでとうございます。  
沖縄県教育委員会との共催で実施している「児童・生徒の平和メッセージ」事業は今回で 35 回目を迎え、県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒に、日常生活の中で「戦争」と「平和」について考えてもらうことにより平和を尊ぶ心を育む機会となっています。

入賞した優秀賞以上の 41 作品（最優秀賞・優秀賞）は当館の展示会を皮切りに、八重山平和祈念館、宮古島市未来創造センター、名護市立中央図書館、沖縄県立図書館の 4 会場で巡回展示しました。

児童・生徒のみなさんの素直な平和への思いが詰まった図画・作文・詩の「平和のメッセージ」作品は、展示会に来られた多くの子どもから大人の方々の心に強く響いていました。

## ● 図画の部 入選者

小学校（低）の部（7名）		
最優秀賞	知 念 芽 生	（天久小 2 年）
優 秀 賞	毛 呂 優 奈	（沖縄カトリック小 1 年）
	宮 崎 一知花	（八島小 1 年）
優 良 賞	上 原 汐 莉	（海星小 2 年）
	光 森 怜	（海星小 2 年）
	土 橋 昊	（八島小 1 年）
	松 村 逸 平	（天久小 2 年）
小学校（高）の部（7名）		
最優秀賞	具志堅 まある	（浦添小 6 年）
優 秀 賞	知 念 慶	（天久小 4 年）
	朝 倉 楓 夏	（明石小 6 年）
優 良 賞	喜屋武 いろは	（西原南小 6 年）
	末 吉 藤 乃	（城東小 6 年）
	安仁屋 杏 奈	（ゆたか小 6 年）
	又 吉 琴 音	（浦添小 6 年）
中学校の部（10名）		
最優秀賞	安仁屋 優 奈	（宮里中 2 年）
優 秀 賞	平 良 璃 亜	（南風原中 3 年）
	屋嘉比 璃 子	（羽地中 3 年）
優 良 賞	新 城 一のり	（具志頭中 2 年）
	砂 川 優 葵	（具志頭中 3 年）
	新 垣 結 夏	（金城中 3 年）
	池宮城 紗 菜	（松城中 2 年）
	仲 間 も え	（長嶺中 2 年）
	藩 歩 鈴	（寄宮中 3 年）
	外 間 華	（寄宮中 3 年）
高等学校の部（10名）		
最優秀賞	板良敷 花 怜	（小禄高 3 年）
優 秀 賞	大 城 美 桜	（小禄高 3 年）
	嘉味田 優	（開邦高 2 年）
優 良 賞	大 城 蒼	（開邦高 3 年）
	比 嘉 心 愛	（開邦高 2 年）
	金 城 更 紗	（糸満高 2 年）
	真 鍋 朱 里	（具志川高 1 年）
	結 城 沙 羅	（真和志高 2 年）
	当真 綾 花	（真和志高 3 年）
	大 城 沙 和	（つくば開成国際高 2 年）
特別支援の部（8名）		
最優秀賞	村 田 蒼 真	（金城小 6 年）
優 秀 賞	中 瀬 千 紗	（高嶺小 6 年）
	古 堅 伸二郎	（伊良波小 6 年）
優 良 賞	長 濱 吏 玖	（中原小 2 年）
	宮 城 璃 暢	（中原小 3 年）
	石 川 光 翠	（中原小 3 年）
	野 原 シュウ	（高嶺小 6 年）
	山 下 千 咲	（瀬川中 3 年）

## ● 作文の部 入選者

小学校（低）の部（5名）		
最優秀賞	知 念 芽 生	（天久小 2 年）
優 秀 賞	與 座 諒 真	（港川小 2 年）
	石 垣 条 治	（海星小 2 年）
優 良 賞	上 間 葉 月	（翔南小 3 年）
	田 嶋 羽 乃	（沖縄インターナショナル 3 年）
小学校（高）の部（6名）		
最優秀賞	知 念 由 依	（天久小 6 年）
優 秀 賞	知 念 慶	（天久小 4 年）
	川 端 美 結	（東風平小 6 年）
優 良 賞	櫻 田 有 風	（黒島小 5 年）
	徳 元 穂 菜	（山内小 5 年）
	木 村 沙 椰	（東風平小 6 年）
中学校の部（9名）		
最優秀賞	謝 花 日 菜	（開邦中 2 年）
優 秀 賞	城 間 奏 乃	（寄宮中 3 年）
	浦 崎 早 未	（具志頭中 3 年）
優 良 賞	知 念 咲 希	（豊見城中 3 年）
	関 根 花 彩	（開邦中 2 年）
	伊 波 美 音	（開邦中 2 年）
	多和田 莉 鈴	（開邦中 3 年）
	阿 部 純 華	（開邦中 2 年）
	上 里 希	（開邦中 3 年）
高等学校の部（13名）		
最優秀賞	與 座 菜々果	（開邦高 1 年）
優 秀 賞	糸 満 愛 莉	（那覇国際高 2 年）
	運 天 彩 和	（那覇国際高 3 年）
	東 江 咲 季	（首里高 3 年）
優 良 賞	福 島 瑠 渚	（開邦高 3 年）
	世名城 藍 花	（開邦高 2 年）
	大 谷 和 子	（開邦高 1 年）
	仲 西 由 菜	（首里高 3 年）
	上與那原陽葉里	（開邦高 2 年）
	三 吉 莉 央	（那覇国際高 1 年）
	金 城 利 知	（那覇国際高 1 年）
	山 城 杏 莉	（首里高 3 年）
	浦 崎 鈴 菜	（向陽高 3 年）
特別支援の部（1名）		
最優秀賞	該 当 な し	
優 秀 賞	該 当 な し	
優 良 賞	新 城 福 人	（栗國中 3 年）

## ● 詩の部 入選者

小学校（低）の部（3名）		
最優秀賞	宮 里 一 誓	（登野城小 3 年）
優 秀 賞	知 念 芽 生	（天久小 2 年）
優 良 賞	中 村 幹	（明石小 3 年）
小学校（高）の部（10名）		
最優秀賞	城 間 一步輝	（伊良波小 6 年）
優 秀 賞	知 念 由 依	（天久小 6 年）
	知 念 慶	（天久小 4 年）
優 良 賞	林 美 緒	（真和志小 6 年）
	兼箇段 蒼 空	（安富祖小 6 年）
	澤 紙 小 南	（真和志小 6 年）
	町 田 宗 映	（真和志小 6 年）
	内 間 優 七	（西崎小 6 年）
	上 原 利 亜	（西崎小 6 年）
	赤 嶺 寧 咲	（東風平小 6 年）
中学校の部（10名）		
最優秀賞	山 城 璃々杏	（佐敷中 3 年）
優 秀 賞	嶺 井 美 桜	（開邦中 2 年）
	瀬 川 万 智	（開邦中 3 年）
優 良 賞	竹 村 衣 十	（長嶺中 1 年）
	宮 城 日南子	（開邦中 3 年）
	村 吉 梨 花	（豊崎中 3 年）
	加 藤 に じ	（豊崎中 3 年）
	木 田 葉 月	（開邦中 3 年）
	徳 元 千 時	（球陽中 2 年）
	富 原 碧 音	（豊崎中 3 年）
高等学校の部（10名）		
最優秀賞	座 覇 結 月	（那覇西高 3 年）
優 秀 賞	賀 数 和 心	（向陽高 1 年）
	比 嘉 涼 乃	（首里高 3 年）
優 良 賞	石 川 璃 音	（向陽高 2 年）
	クイン芽里奈エマ	（八重山高 3 年）
	城 間 一 華	（向陽高 3 年）
	上江洲 和 奏	（首里高 3 年）
	島 袋 琉 音	（開邦高 2 年）
	仲 元 琉 織	（豊見城南高 1 年）
	東 江 愛 莉	（那覇西高 3 年）
特別支援の部（4名）		
最優秀賞	金 城 佐 亮	（西崎小 6 年）
優 秀 賞	新 崎 寛 歩	（真和志小 6 年）
優 良 賞	比 嘉 悠 羽	（真和志小 6 年）
	安 里 悠	（上間小 2 年）



「児童・生徒の平和メッセージ」入賞作品（最優秀）の中から、図画と詩を紹介します。



高等学校の部

中学校の部

## 第35回 「児童・生徒の平和メッセージ」

図画部門最優秀作品

「時を越えて記憶を繋ぐ」

沖縄県立小禄高等学校3年 板良敷 花怜



「平和の願いを虹とともに」

沖縄市立宮里中学校2年 安仁屋 優奈

小学校(高)の部

特別支援の部

小学校(低)の部



「仲良い世界をこれからも！」

浦添市立浦添小学校6年 具志堅 まある



「平和が続きますように」

那覇市立金城小学校6年 村田 蒼真



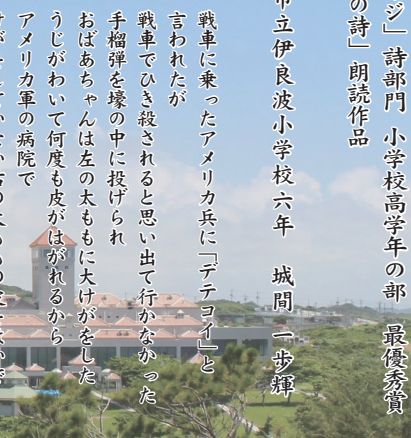
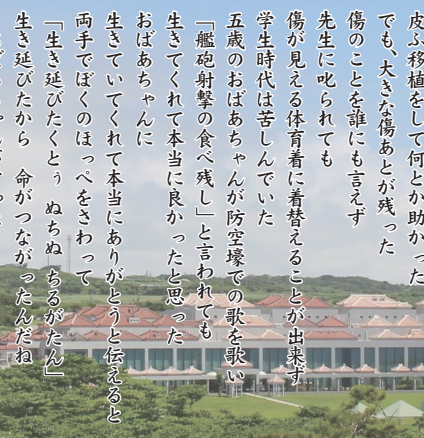
「世界のおともだちとなかよくなりたい」

那覇市立天久小学校2年 知念 芽生

毎年、ぼくと弟は慰霊の日におばあちゃんの家に行って仏壇に手を合わせウー・トートーをする一年に一度だけ  
「空しゅう警報聞こえてきたら今はぼくたち小さいから大人の言うことよく聞いてあわてないでさわがないで落ち着いて入っていきましょう防空壕」  
五歳の時に習ったのに八十年後の今でも覚えていて笑顔で歌っているから楽しい歌だと思っていた  
ぼくは五歳の時に習った歌なんて覚えていない  
ビデオの中のぼくはあんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに一年に一度だけ  
おばあちゃんが歌う  
「うんじゅん わんにん 艦砲ぬくえーぬくさー」  
泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かってた  
歌った後に  
「あの戦の時に死んでおけば良かった」と言うからぼくも泣きだした  
沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして生き残った人のことを  
「艦砲射撃の食べ残し」と言うことを知って悲しくなった  
おばあちゃんの家は戦争が終わっていることも知らず防空壕に隠れていた

第三十五回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門 小学校高学年の部 最優秀賞  
戦後八十年 沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」朗読作品  
「おばあちゃんの歌」  
豊見城市立伊良波小学校六年 城間 一歩輝

戦車に乗ったアメリカ兵に「デコイ」と言われたが  
戦車でひき殺されると思い出て行かなかった  
手榴弾を壕の中に投げられ  
おばあちゃん左の太ももに大けがをした  
うじがわいて何度も皮がはがれるから  
アメリカ軍の病院で  
けがをしていない右の太ももの皮をはいで  
皮ふ移植をして何とか助かった  
でも、大きな傷あとが残った  
傷のことを誰にも言えず  
先生に叱られても  
傷が見える体育着に着替えることが出来ず  
学生時代は苦しんでいた  
五歳の時おばあちゃんが防空壕での歌を聞いて  
「艦砲射撃の食べ残し」と言われても  
生きてくれて本当に良かったと思った  
おばあちゃんに  
生きていくために本当にありがとうと伝えると  
両手でぼくのほっぺをさわって  
「生き延びたから 命がつながったんだね」とおばあちゃんが言った  
八十年前の戦争で  
おばあちゃん心と体に大きな傷を負った  
その傷は何十年経っても消えない  
人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように  
おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく  
おばあちゃんが繋いでくれた命を大切にしてい  
一生懸命に生きていく



編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1  
URL <https://www.peace-museum.okinawa.jp>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947  
Email [webmaster@peace-museum.okinawa.jp](mailto:webmaster@peace-museum.okinawa.jp)

